

特定非営利活動法人

# バングラデシュと手をつなぐ会

# ミロン

## No.105



「ミロン」は、一つになる、手をつなぐ という意味のベンガル語です。

バングラデシュと手をつなぐ会ホームページ : <http://bangla.npgo.jp>

## ■ アジアの子どもたちの未来のために ■

### バングラデシュと手をつなぐ会へあなたも参加しませんか

バングラデシュと手をつなぐ会では、バングラデシュ・カラムディで現地の村人による開発のための委員会「シヨンダニ・シヨンスタ」と協力して【教育】と【医療】の分野で次のような支援活動を行っています。

#### 教育の分野では ……

将来を担う子どもたちの教育の普及と向上のために

- ① 小学校の建設 【1987～89年】とその後の運営支援
- ② 貧しくて学校へ行けない子ども達への奨学金制度
- ③ 職業訓練【ミシン】で技術を身につける
- ④ 教科書図書館【教科書が買えない中学生のために、教科書の貸出】

#### 医療の分野では …………… 命と健康を守るために

- ① 母子保健センターの建設【1995年】とその後の運営支援
- ② 医療設備の充実
- ③ 緊急患者対応のために救急車の配備【1998年～】
- ④ 現地医師、看護婦のための訪日研修【1995年～97年】
- ⑤ 出産前女性への母親教室
- ⑥ 村の保健衛生向上のための巡回健診と衛生指導



#### 国内活動では ……………

夏の現地訪問、冬のスタディツアーを毎年実施しています。

- ① 会報誌【ミロン】の発行
- ② 定例会の開催【参加型学習会など】
- ③ 現地訪問の報告会の開催、報告書作成と記録ビデオの製作
- ④ チャリティコンサートおよびバザー
- ⑤ 総会【毎年4月、予算・決算と活動方針やその決定など】

## 「 Bangladesh と手をつなぐ会 今年の総会は、5月21日(日)です。」

「子牛を育てるのは大変で、家庭は貧しいけれど、生活に困窮感はない。」

「お金で計れない、生活の豊かさ、人間関係の豊かさを感じた。」

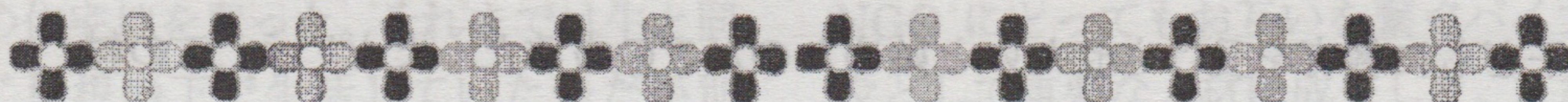
2月に、運営委員の宇治さんがカラムディ村を訪問、5年目になる子牛の奨学金の現地調査を行いました。子牛の奨学金、牛の育成プログラムを合わせて、今では100頭の牛が子どもたちの教育と、村人の生活を支えています。宇治さんの報告の言葉が心に残ります。

母子保健センターには、新しい医師が着任、サイド医師と共に張り切って診療にあたっています。出産件数も、着実に増加。カラムディ村に根付いた Community-Based Hospital に育ってきました。現地とのつながりは年とともに深まっていることを感じます。

さあ、今年も「Bangladesh と手をつなぐ会」はカラムディ村との交流、協力活動を継続していきます。夏の現地訪問と冬のスタディツアー、春と秋のバザー、チャリティコンサート、ミロンの発行、その他事務局会議や運営会議など、地味ですが、着実な活動を続けます。NGO としての学習もNGO福岡ネットワークの仲間と共に深めるつもりです。

5月21日の総会にお集まりいただき、これからの会の夢を語り合いましょう。今年の総会では、昨年初めて現地を訪問した淵上裕子さん編集のビデオ上映も予定しています。お楽しみに。

(二ノ坂 保喜)



### ミロン 105号目次

あいさつと目次	1
現地訪問報告	2~4
Bangladesh 写真館	5~6
今井記念・祈りの石 助成事業報告	7
開発教育ファシリテーター養成講座・国際TOPミスト表彰式報告	8
カレー教室・グローバルカレッジ報告	9
Bangladesh カレーレシピ	10
会計報告・事務局便り	11
「Bangladesh と手をつなぐ会」入会のご案内	12
これからの行事予定	13

## Bangladesh・カラムディ村訪問レポート2006

理事；宇治松枝

2月8日から19日まで、昨年に続き春のカラムディ村に出かけた。病床で私の名前を呼び続ける義母を夫に託しての出発だったので、「次回はない」という思いが強く、ただただ「責任を果たしたい！」と思い続けて出発した。

2001年、宇治は手をつなぐ会の奨学金制度とは別に乳牛の子牛を利用して中学進学資金を家族が貯蓄する奨学金制度として「子牛の貯金箱」を立ち上げた。今回はこのプロジェクトの対象となっている家庭の家計調査、親の教育意識調査を目的に出かけた。5年目のプロジェクト評価の大切な資料なので、できるだけ正確な数字を出すため、Bangladeshを研究のフィールドにしている日下部達哉（日本学術振興会特別研究員）氏に調査を、通訳を Towfique Elahi（Bangladesh国営テレビゲストプロデューサー）氏に依頼した。現地NGOの担当者アジズール氏と4人で36家庭の調査を実施した。

## 乳牛の子牛を奨学金に

2000年11月、Bangladeshで乳牛の子牛を奨学資金として貸し出しているシャヘ・アロム氏の村へ視察に出かけた。自力で小学校を運営し、できるだけ多くの子どもに教育を受けさせたいと始めたのがこの方法だったという。この村より僻地にあり、農業を生業とし、家畜と共に生活しているカラムディ村に最も適したプロジェクトであると確信し、現地NGO ションダニ・ションスタと検討の結果、5年のパイロット事業として次のような内容で開始した。

## 「システム」

「中学教育を受ける準備資金を貯蓄する」「たんぱく質を摂取する」これらを主な目的に、貧しいが向学心のある小学校3年生のいる家庭に乳牛の子牛1頭を貸し出して育てさせ、出産後ミルクを売って教育資金を貯蓄させる。乳離れした子牛はNGOに返却し、次の家庭に貸し出す。

## 「システムの問題点」

牛を飼うには牛小屋、餌代、妊娠させる費用が必要になる。病気になることもあるなど、かなりの負担がかかる。また、家庭ごとに負担のかかり方が違うのでNGOのマネジメント能力が必要となる。

## ◆ 調査→1期生 No4&lt; Nargis Aktar (女性) &gt;

生徒は現在8年生(中学2年)。40歳の母と二人暮らし。インドで暮らしていたが両親が離婚したので母親と親戚を頼ってカラムディ村に来た。小学校へは出席すれば100タカもらえるから行かせたそう。仕事はないので玄米を買い、精製して売っているが日に10タカ程度の収入にしかなっていない。

2002年1月に乳牛の子牛を1頭配布した。2003年3月24日に出産したが子牛は死んだ。子牛がいないとミルクが出ないので、なけなしの700タカで子牛を買った。その後8ヶ月間ミルクを売って収入を得ることができ、320タカ貯蓄をしている。2004年11月には2頭目が生まれ、こちらも8ヶ月間ミルクからの収入を得て850タカを貯蓄している。家族は700タカで買った子牛を2004年末に5000タカで売り、隣の住宅地を買った。それまでは牛と同じ屋根の下で生活していたのだが別棟で生活ができるようになっていた。子どもに技術を身に付けさせたいとミシンの研修も受けさせている。学歴も付けて服装関係で暮らせるようにしたいとのこと。しかし、こんなに貧しければ牛の餌代が大変だっただろうと質問すると「私たちが牛を頼んだのだから問題はない」と語る。ミルクが売れ、子牛も売れ、糞は燃料になるのよ、という。現在NGOへの貯蓄が1,170タカある。貯蓄した資金には手を付けずに中学校へ進学した。「この母親のパワーはどこから来るのかしら？」と日下部氏に質問をしてみる

と「う～ん、それが離婚の原因かも？」と彼は独身らしいコメントをした。しかし、見習いたい底力だ。1頭の子牛を貸し出してから5年、中学卒業の年を迎えている。

この家庭に子牛の配布を決定したときには現地NGOに駐在していた矢野孝明氏のアドバイスがあった。その後は担当しているアジズール氏のきめ細かなマネージメントが功を奏している。収入より支出が多い家庭もあるが、牛を飼っていると保険と同じで何かのときには売って高収入を得ることができる。拡大再生産を繰り返すには病気にならないような飼育のアドバイス、病気になったときの早い治療など問題がおきたときの忍耐強い対応が必要になる。アジズール氏がマネージメントしている乳牛は今年70頭を超える。5年間で蓄えた経験が村人に還元され、村人にとってもNGOにとってもお互いを繋ぐパイプ役として重要な人材に成長した。また、ミルクは近所に売られており村人も牛乳を飲む機会が増えた。今後も乳牛が増えることで、たんぱく質の摂取量が増えてゆくと貧血の人が少なくなるのではないかと期待している。5年目の詳しい評価はこれからだが、感覚的には貧しい人々の生き方の勝利とでも表現したほうが的確かもしれない。少ない投資で継続可能なこのプロジェクトが村人とNGOのエンパワメントを確実に養っている。機会があれば今後も定期的な調査を実行してゆきたいと思う。

## ◆ お産 ～「厳しい現実」

村について翌朝、お産だといって看護助手のゾフォラが呼びに来た。新しい産科病棟に一步入ると床の白さが眩しい。分娩室のスライド式のドアを開けると、分娩台で若い産婦が点滴を受けていた。内診すると胎児の頭が回転しきっていないため下がってこないようだ。小柄な母親に対して胎児が少し大きい。胎児心音は細く、早く生ませないと極めて危険な状況だが陣痛が止まっていた。陣痛はお産を進めるエネルギーなので陣痛がなければ生まれない。ナースは点滴の中に陣痛促進剤を極少量入れて様子を見ていた。日本では帝王切開をしているケースだ。しかし、まかせておいてとナースはいった。たとえこの状態で胎児が生まれても生きてゆける可能性はないからと私を慰めてくれる。母体が大出血するのではないか、ショックがくるのではないか、子宮破裂したりしないかと思うと心配でたまらなかったが、ナースの言うとおりに母体に損傷はなく死産で終焉した。

母親は母子保健センターから遠いため一度も検診を受けていなかった。今回のお産が2度目で、家の近くのビレッジドクターに診てもらったそうだった。しかし、お産の進行状況がおかしくなり、はじめてセンターに来たという。その時には、もう胎児は弱り、陣痛がなくなっていたというわけだ。バングラデシュのお産はナースの仕事。イスラム教のこの国ではたとえドクターでも男性が分娩室へ立ち入るのは難しい。僻地にあるカラムディ村も例外ではない。

## ◆ 保育器配備→日本製です

今井記念国際協力基金の協力で母子保健センターへ保育器が昨年配備された。今回7日間村を歩き、改めて乳児の小ささを実感した。お母さんたちが抱いている児の月数を確認すると3ヶ月、4ヶ月というのに私には1、2ヶ月に見える。仕事上の経験から目分量で分かるのだが、明らかに2キロ前後で生まれている子が多い。写真(No.4)の子は4ヶ月だというが、まだ首が据わっていないようだ。母親の子を見る眼差しがやさしかったのでシャッターを押した。村に滞在している間は幸いにも出番がなかった保育器だが、母子保健センターの重要な一員として末長く働いてくれることになるだろう。

# バンガラ写真館 ~ 今回の訪問より

→ 一期 (No. 4) Nargis

第一期生の彼女ももう中学2年生。  
牛の世話に勉学にと励んでいる。



↑ 食事用の釜。  
牛の糞はよく燃える。

← 子牛と少女、  
そして宇治さん。

# バンクラ写真館 part2

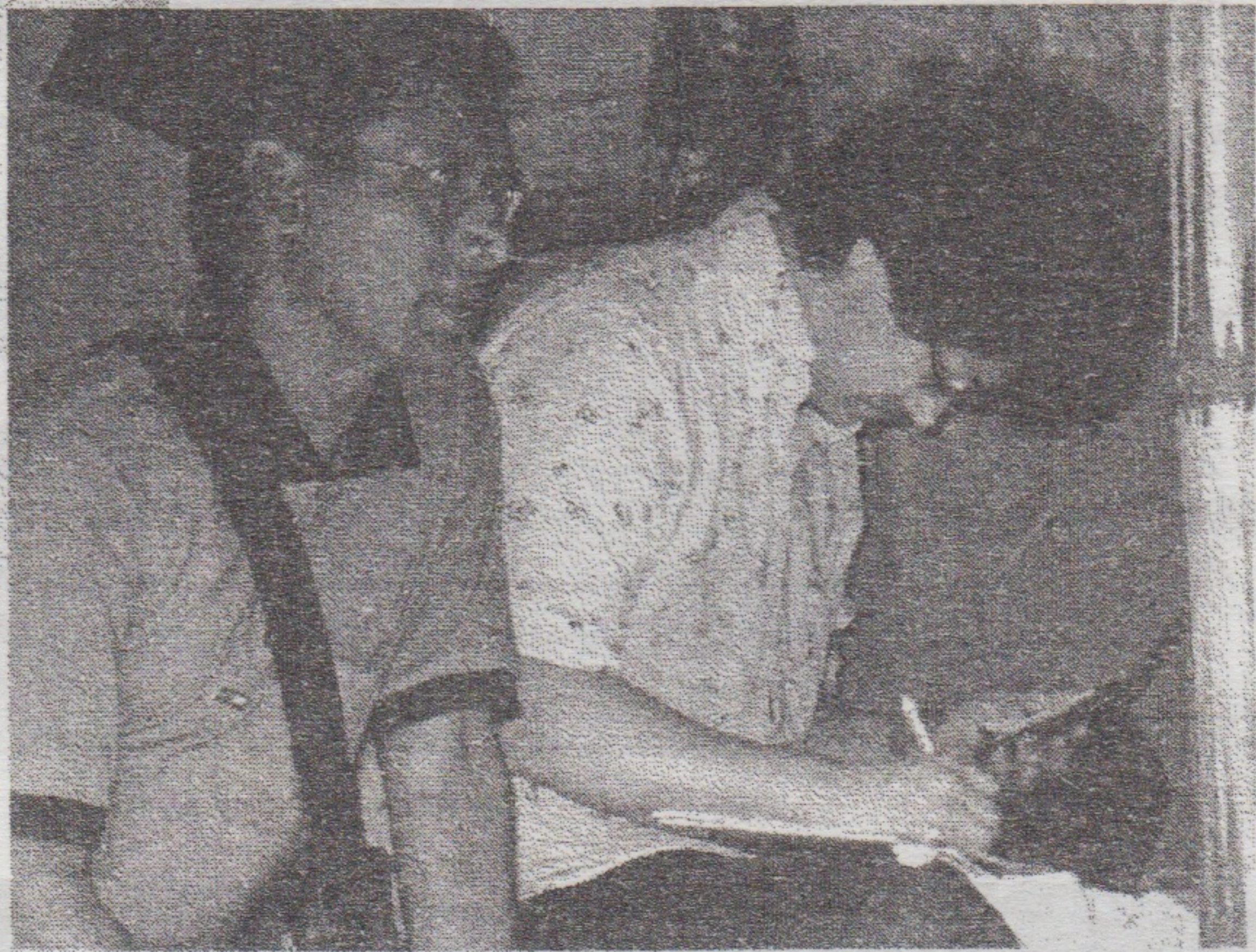


←母親と4ヶ月の乳児。

母親の眼差しの優しさは、  
きっと万国共通。

アジズールさん（左）と  
日下部氏（右）

↓村中どこでも訪ねます。

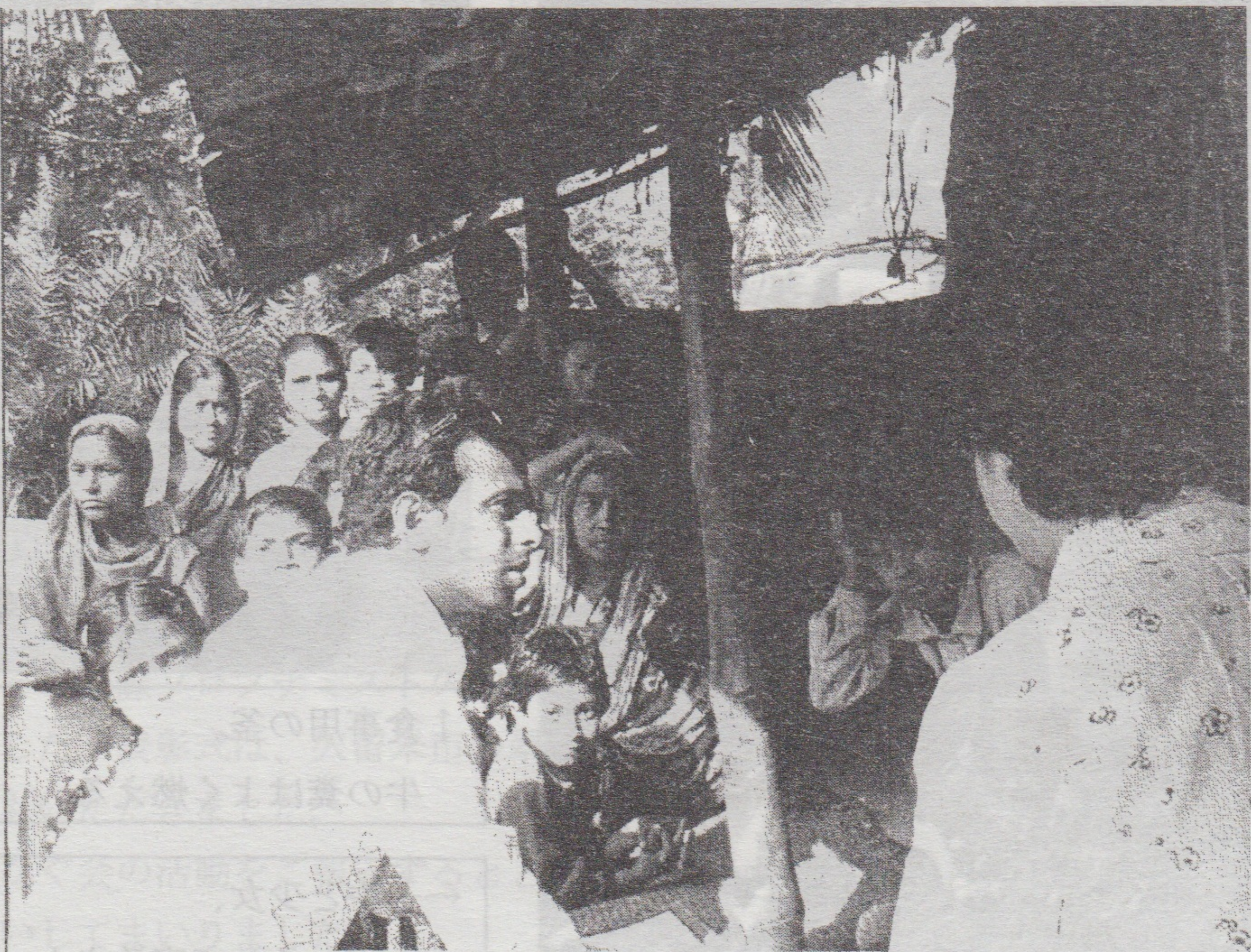


半の世帯で暮らすアジズールさん。

学歴のない親に分かりやすい言葉で

質問する通訳の Towfique Elahi 氏。

実際に村に出て、見て、触れて、聴く。



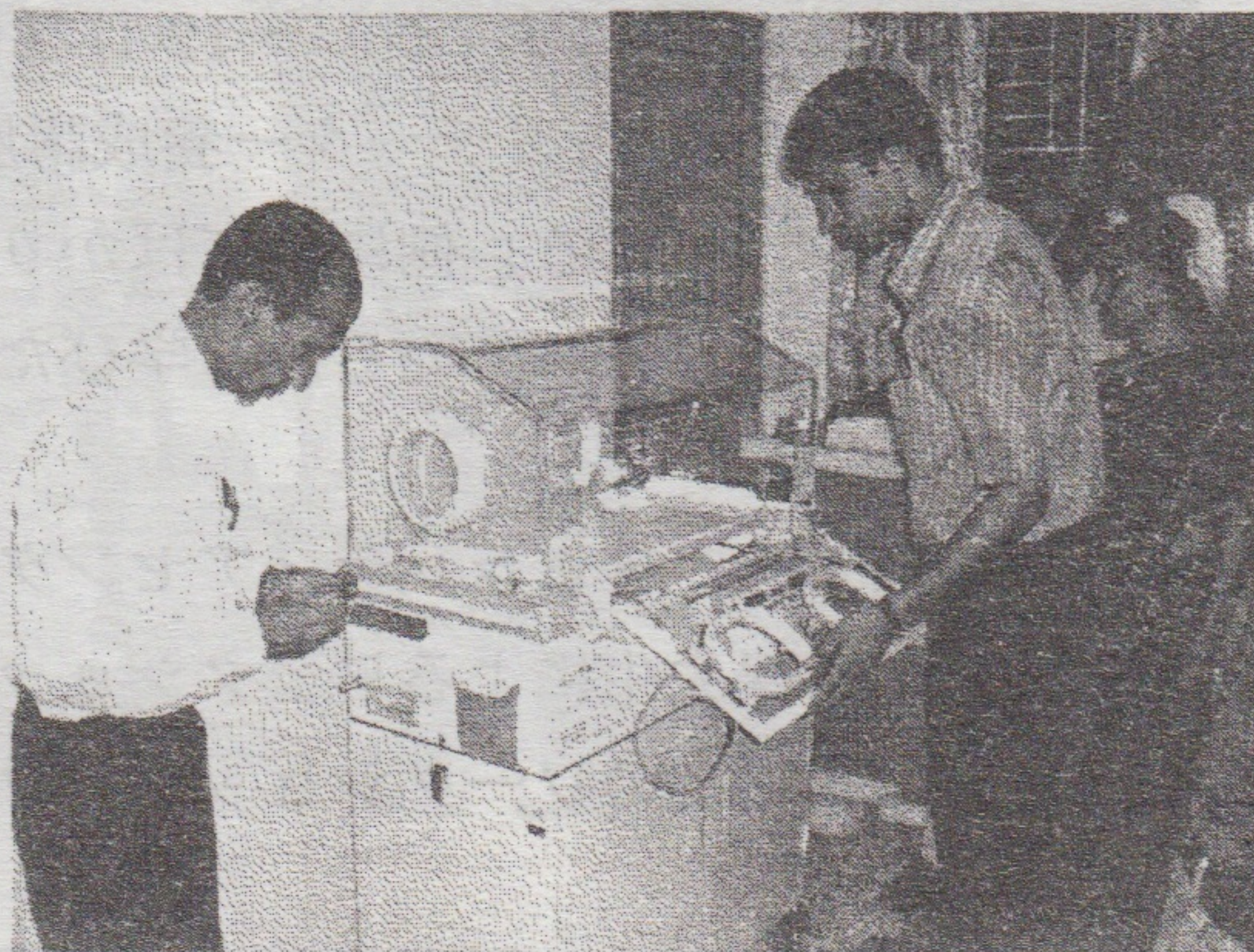
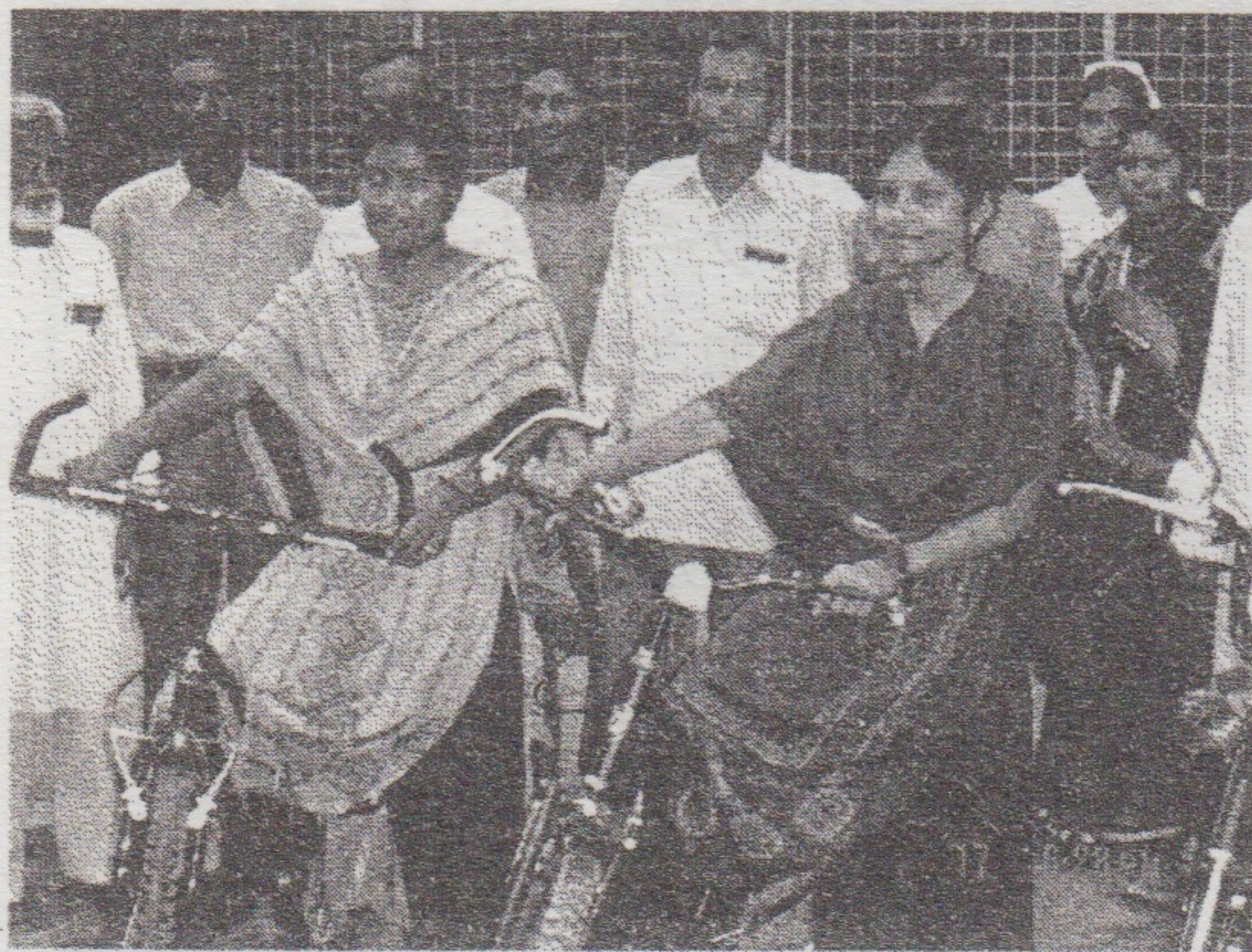


# みなさまのおかげです



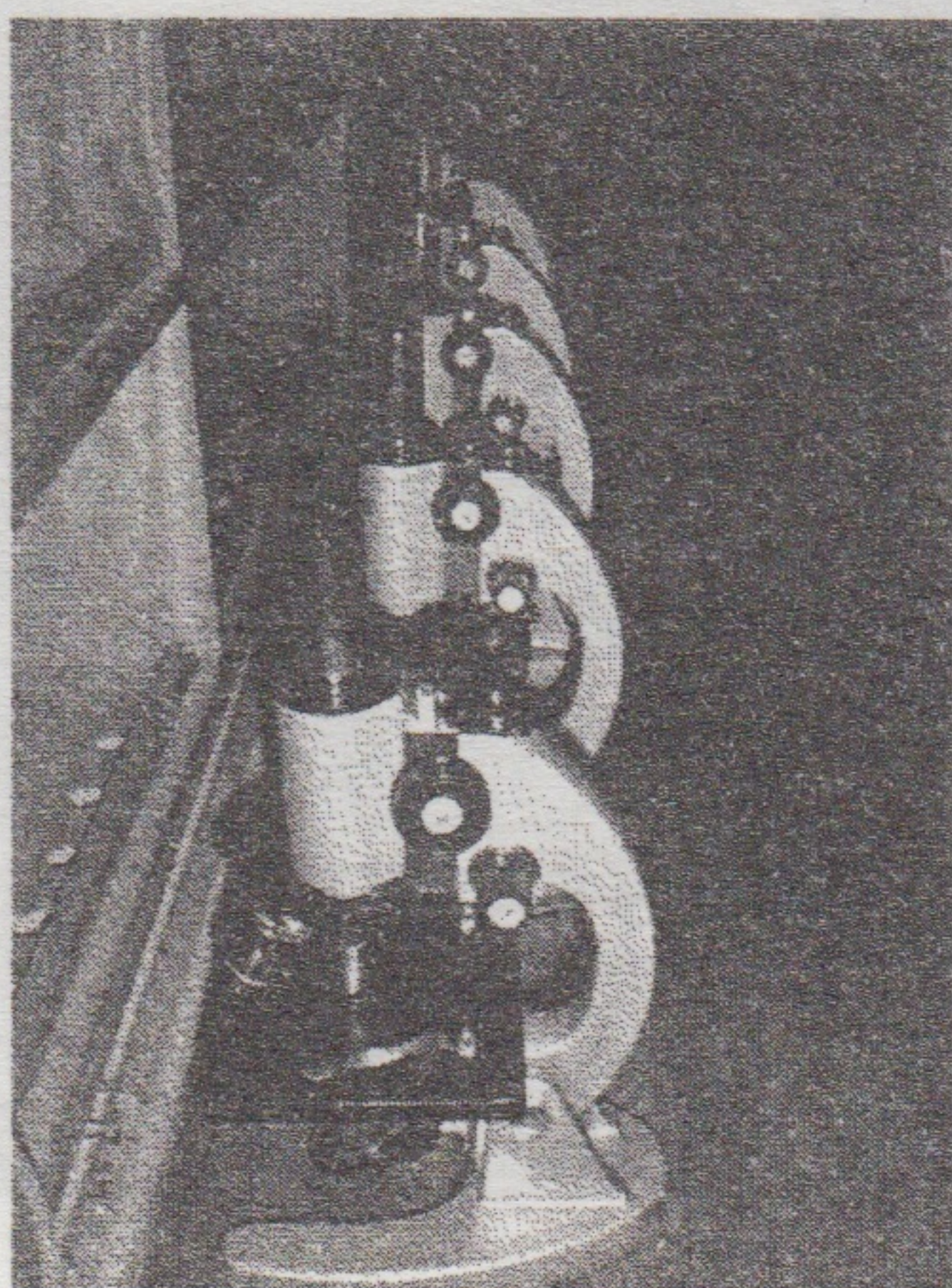
## 公益信託 今井記念海外協力基金助成事業報告

産婦人科病棟にハイリスクな新生児に対しての機器が準備できました。また、巡回用自転車とバイクも配備され村人の健康づくりに能率的な活動を開始しました。カラムディ村だからこそ、その機器の一台一台が命を救うと実感しております。また、自転車・バイクの導入により、一日の活動範囲・活動効率が向上したことは言うまでもありません。感謝して報告いたします。



## (財) ひろしま・祈りの石国際教育交流財団の助成事業報告

現地 NGO ションダニ・ションスタが運営している学校「オンネシャ・ビツダニケトン校」に理科の実験設備や教材がそろいました。コンピュータ4台、図書の本も昨年に引き続き充実することができました。財団には3年間を通じ、図書館、理科室、トイレそして教材の充実に資金協力をいただきました。生徒を始め先生、地域の人々の感謝の気持ちを重ねあわせて、報告させていただきます。



**報告スペシャル**

講座・表彰式・料理教室・講演……

いろんなところで会のメンバーが活躍しております。当会は人財にてなりたっておりますからして……。

皆さんの活動報告です！

**\*\* 報告：開発教育ファシリテーター養成講座を受けました \*\*\***

2005年2月11日（土・祝）～12日（日）、油山青年の家にて開催されました、第4期開発教育ファシリテーター養成講座に参加いたしました。これまでは、ワークショップを「受ける」側にいてばかりでしたが、実際にワークショップを「行う」立場の方はどうしているかを学びたく、この講座に参加させていただきました。

まずは（特活）アジアボランティアセンターの荒川共生さん、ならびに帝塚山学院大学の岩崎裕保先生によるワークショップならびに講義が行われ、次に、パーム油の問題についてのワークショッププラン作成、翌日にはプラン発表が行われました。

1泊2日の合宿講座で、スケジュールも詰め詰めで、他の参加者との交流を深める余裕がなかったのは残念ですが、良いファシリテーターとは

- ① つかみで場を和ませられる
- ② いかに聴衆を参加させるか（飽きさせないか）
- ③ 「気づき」「学び」「行動」の組み合わせができる（その連続も一つの方法）

であることを学ぶことができよかったですと思います。

今後、実践する機会がありましたら、この講座で学んだことを活かしたいと思  
います。 (協力会員 堀 哲也)

**\*\* 報告：表彰を受けました！ \*\*\*\*\***

Bangladesh と手をつなぐ会の活動に理解を示し、昨年からの支援をしていただいている“国際ソロプチミスト久留米”から、ソロプチミスト日本財団賞を授与されました。表彰式は、久留米市の翠香園で2月16日に行われ、表彰のほかにも援助金もいただきました。

手をつなぐ会の活動をご報告するとともに、これからも変わらぬご支援とご協力をお願いしてまいりました。 (中島ともこ)

\*\*\* 報告：バンングラデシュ カレー料理教室 大盛況♪ \*\*\*\*

1月29日、バンングラデシュ カレー料理教室が開催された。  
お天気にも恵まれ、老若男女30名ほど、たくさんの方に来ていただいた。初めての参加という方が多かったのもありがたい。

バンングラデシュ料理という  
と、香辛料などが複雑…と感じるのは私だけではないだろう。そこで今回は、市販のカレー粉でも応用可能というような料理を作ることにした。大勢で、ああでもないこうでもない和気あいあいとした一時。スパイシーな香りに包まれながら、最後にはおいしい料理に舌鼓を打つことができた。(渊上裕子)



↑シャヒダ講師を囲み、  
熱心に話を聞く参加者の皆さん。

\*\*\* 報告：グローバルカレッジ 国際理解コース 講師 \*\*\*\*

長崎県佐世保のNGO「ワールドスタディーズセンター」(中村清美代表)のNGOの主催する「グローバルカレッジ 国際理解コース」で講師を務めてきました。「ワールドスタディーズセンター」は、開発教育の実践、講師派遣、情報提供などを主な活動としている非営利の団体です。

今年で3年目になるというこのコース、今年は、「アジアの女性と子どもたち」というテーマで、5人の講師が話をしました。

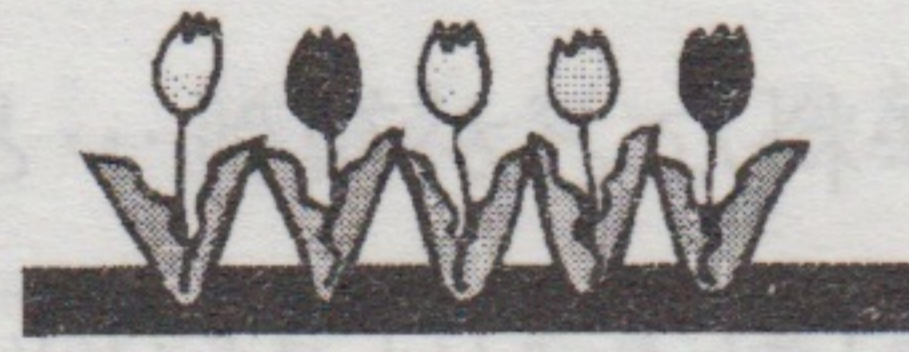
私(二ノ坂)は、1月21日(土) 19:30~21:00『子どもの健康が世界を変える～バンングラデシュと手をつなぐ会の活動から』というテーマで、話しました。バンングラのこと、バンングラデシュと手をつなぐ会の活動のこと、「いのち・開発・NGO」を通して学んだことなどを話しました。

長崎の県知事選挙や、天候不良などもあり、参加者は十数名と少なかったのですが、学校の教師や大学生をはじめ、熱心な方たちにたくさんの質問を受けました。私の方がかえって、意欲をかきたてられた講座でした。今後も、つながりを深めていきたいと思います。(二ノ坂保喜)

# バンガラカレーに挑戦！ ～この春はカレーでぴりっと。

料理教室にどうしても参加できなかったあなたに朗報！

料理教室で学んだレシピをこっそりとお教えします。こっそりですよ。



## キチュリ(カレートマト)

- ① フライパンに油をひき、玉ねぎ(1個、薄くスライス)を炒める。
- ② ①に、にんにく(1個、線切り)、鶏もも肉(2枚、1口大)、しょうが(中1個、すりおろし)を加え、青とうがらし(1本、半分に縦割り)、スパイス(カレーパウダーで代用可)、塩(適量)で調味する。
- ③ 別のフライパンでじゃがいも(小8個、小さめの1口大)を炒め、少し火が通ったら②に加える。
- ④ フライパンでバター(30g)を溶かし、たまねぎ(1/2個、薄くスライス)を炒める。洗っておいた米(3合、米はタイ米の方が良い)、豆(1合、レンズ豆・粟・きび等可)を加え、少し透き通るまで炒める。
- ⑤ ③の具、④の米・豆を炊飯器に入れる。9合の線までお湯を入れ、塩味を整える。あとは炊飯ボタンを押して待つのみ！

## マスカレー(きびなごのカレー)

- ① フライパンに油をひき、たまねぎ(1個、5mm幅スライス)、じゃがいも(中2個、1cmの拍子木切り)を軽く炒めて、きびなご(頭と腹わたを取って洗ったもの)、青とうがらし(1本、半分に縦割り)を加える。
- ② トマト(1個、荒みじん)を加え、形がなくなったら少し水を加え、じゃがいもが柔らかくなるまで煮る。
- ③ ターメリック(カレーパウダーで代用可)と塩で色付け、香付け、味付けをする。

※ バンガラカレーと申しましても、いろんな材料(肉・魚・野菜)を使用した、様々なカレーがあります。日本でも十分入手可能なものばかりです。

是非お試しあれ～♪

会計報告

募金者紹介 (敬称略)

田中兆子 塚本力 高尾智 山口鋭次郎 山口トシ子 清家リツエ  
 山下ヨシエ 伊達洗次 篠崎モミエ SHANA 原かのこ 児島ヤス子  
 安田美枝子 陶山緑 藤田イツエ 内田真由美 井口弘幸 井口永子  
 塩澤久子 西原美幸 西原敏海 遠藤巖 角泉水 北島弥太郎 富田桂子  
 今給黎靖子 星禮子 長沼和子 原田由紀 吉川八重子 吉川徹  
 にのさかクリニック募金箱 久留米・友の会 下田廣子 安部義子 中島大輔  
 西南学院中学校母の会 茂呂塾保育園 日本キリスト教団大泉ベテル教会  
 安部千鶴 杉園順代 西南学院中学校 国際ソロプチミスト福岡・東  
 調布教会教会学校 国際ソロプチミスト久留米 静岡一番町協会こどもの教会  
 日本キリスト教団日向新生教会

旅費カンパ者紹介 (敬称略)

松隈則子 庄崎恵子 山下久代 瀧本康子 井上伊磨子 志岐玲子

産婦人科病棟医療設備募金者 (敬称略)

藤田瞳 松尾清美

教育と医療募金者 (敬称略)

井原環

事務局便り

一昨年の秋から、月に一度西新事務所に集まって、手作りのバザー品を作っている仲間がいます。手も動かせば口も動いている賑やかな一日です。昨年の夏は、昔なつかしい「蚊帳」をほどいて、帽子をつくり、10月のバザーに出品しました。皆様のお目にとまったでしょうか？

いよいよ春のバザーも間近になりました。提供品・前日の値つけボランティア・当日の売り子ボランティアを募集しています。お手元に不用品がある方、お時間の許す方は是非ご連絡ください。皆様のご協力をお願い致します。

連絡先： 西新事務所 ☎092-844-1369

にのさかクリニック ☎092-872-1136

■入会のご案内

会員募集中

Bangladesh と手をつなぐ会にあなたも参加しませんか？

Bangladesh と手をつなぐ会では、 Bangladesh ・カラムディ村の教育と医療への協力活動を支えてくださる会員を募集しています。

会員

会の運営にかかわり手伝い方：総会の議決権を有します。

会費 月額500円 年間6.000円

賛助会員

会の趣旨に賛同し、ご協力いただける個人または団体の方。

会費一口月額1.000円年間12.000円

※ 何口でも結構です。

会費振込先 郵便振替口座 01720-2-10442

加入者名 Bangladesh と手をつなぐ会

※入会をご希望の方は、以下の用紙にご記入の上、郵送またはFAXにてお送りください。

きりとりせん

■ Bangladesh と手をつなぐ会入会申込書 ■

申込み年月日 年 月 日

フリガナ

氏名

男・女

生年月日

明・大・昭・平 年 月 日

職業

住所

電話・FAX

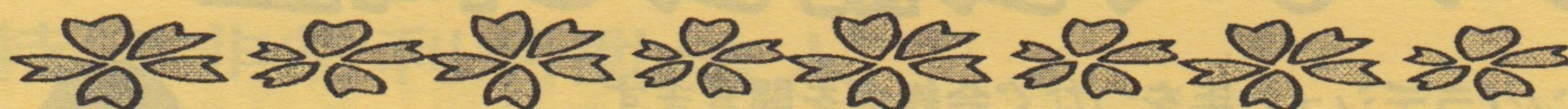
E-mail

@

会員  協力会員 として入会を申し込みます。

会費は 年 月分 から 年 月分までの

円を  直接  郵便振替で納めます



## これからの行事予定

皆様のご参加をお待ちしています。

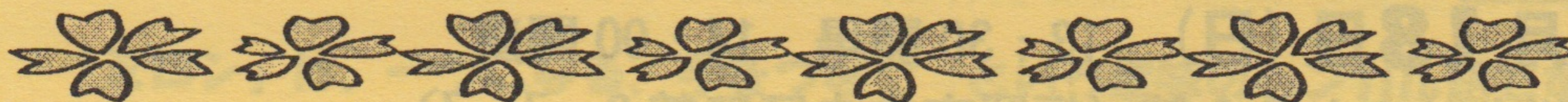
月 日	時 間	内 容	場 所
3 / 17 (金)	19 : 00 ~	運営委員会	西新事務所
3 / 25 (土)	14 : 00 ~	バザー提供品に値付け作業	にのさかクリニック
3 / 26 (日)	12 : 30 ~	春のバザー	にのさかクリニック前
4 / 6 (木)	19 : 00 ~	事務局会議	西新事務所
4 / 20 (木)	19 : 00 ~	運営委員会	西新事務所
5 / 11 (木)	19 : 00 ~	事務局会議	西新事務所
5 / 13 (土)	18 : 30 開演	長崎チャリティコンサート	チトセピアホール
5 / 20 (土)	14 : 00 ~	総会資料印刷	にのさかクリニック
5 / 21 (日)	14 : 00 ~	総会	早良市民センター 3F
5 / 25 (木)	19 : 00 ~	運営委員会	西新事務所
6 / 4 (日)		ミロン106号印刷	にのさかクリニック
6 / 18 (日)	14 : 00 開演	福岡チャリティコンサート	九州キリスト教会館

※予定日時等、変更になる場合もあります。

事前にご確認のうえご参加ください。

※印刷や発送のお手伝いをお願いしています。

ぜひご連絡ください、お待ちしております。



# 手をつなぐ会総会を開催!

2006年バングラデシュと手をつなぐ会総会を開きます。

総会は年に一回の意志決定のための大切な集まりです。

手をつなぐ会のあり方、今後の方針をともに語り合い、

会員相互の交流も深めあいましょう。

日時: **5月21日** (日) 午後2時~

場所: 早良市民センター

(地下鉄藤崎駅上)

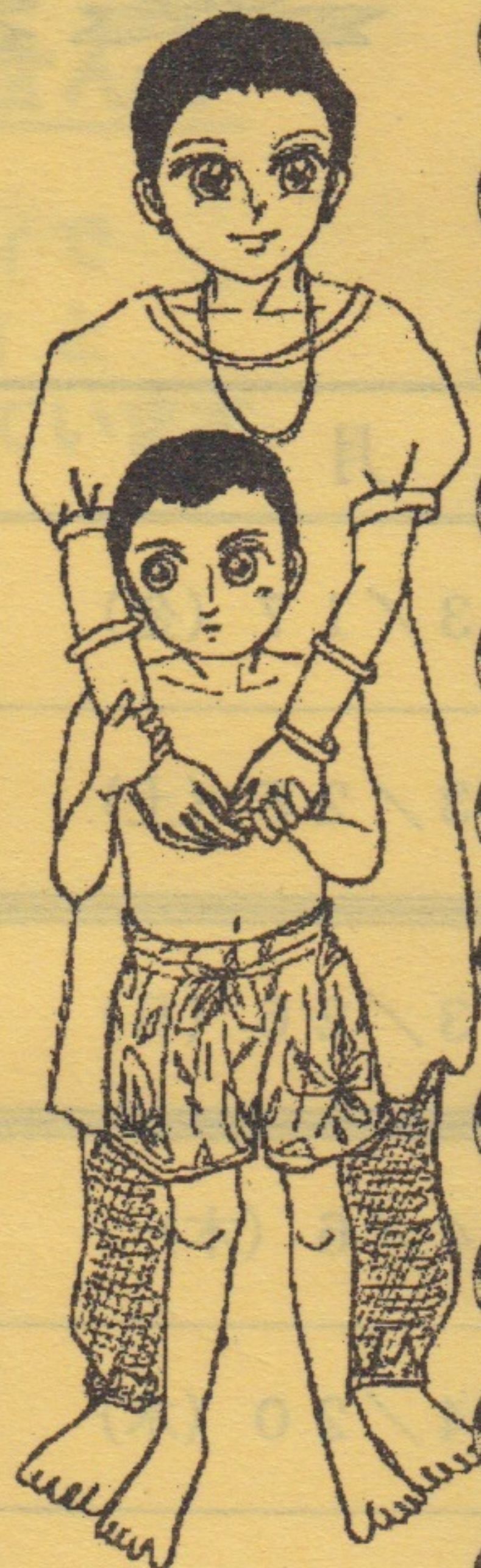
2006年度の会の方向性を語り合います。

新しい役員も選出予定です。

昨年 of 現地訪問のビデオ上映もお楽しみに。

皆様のご来場、

心よりお待ちしております。



## 2006チャリティコンサートのお知らせ

モーツァルト生誕250周年記念

モーツァルト室内楽の愉しみ

宮坂 純子(ピアノ) と 大村交響楽団(室内楽)他

### 長 崎

日時: **5月13日** (土) 18:00 開場 18:30 開演

場所: チトセピアホール (長崎市千歳町5-1 Tel.095-842-2700)

主催: バングラデシュの母子保健センターを支援する会

問合せ: まるか呉服店 河内 (Tel.095-844-0777)

### 福 岡

日時: **6月18日** (日) 13:30 開場 14:00 開演

場所: 九州キリスト教会館 (福岡市中央区舞鶴2-7-7)

主催&問合せ: バングラデシュと手をつなぐ会 (Tel. 092-844-1369)

どちらも・・・入場料 2000円